

LICENSED PRODUCT  
Black  
3/Color  
White  
Magenta  
Red  
Yellow  
Green  
Cyan  
Blue

妙  
之  
奇  
談

五

遠 13  
1866  
止

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21



あつたど。只一過ひととちる時ときハ  
之こゝや潜かづ浮う。其こゝ論ろんや確たしか多た。  
爰こゝ城しろ必かならずく之こゝる人ひと。亦またこれこゝ  
既すでんがぐ妙たふくと云い。守まもり人ひと  
之こゝをあ貴たがしとく奇あま談たと云い

都みやこ下したの才さい人ひと又また士しよりり岡おか  
荅こた村むら田のの女を也ま漢まままくく也也  
ざる人ひとれれくくばばるる人ひと可べし。  
於こゝ茲こゝ乎こゝ。周しゅう消しょう平へいの事こと人ひと  
をあ搜たづんたずん。尚なほ南なん極ごく是こゝ城しろ也也



と疑ふ人あり。并正  
出く。始く周済平ハや  
周済平あり事を知り  
嗚呼先生の名ハ蜀山共  
言く。錦城とも不美  
言く。

云ハ先生此を推し曰。  
吾蜀ハ共々名あり  
人ハ家名を稱むの高  
さよ。又錦城共々  
君の教ありハ家名あり

此義あるふりき。先生の  
言、心も角も。門を越よ家  
系。身。さく。高。泥。十。子。  
まゝぬ。守の。牛。車。の。  
く。ー。く。る。序。

妙・奇談并々正

周滑平先生鑿定

門人 五賢通 著  
無量流

富基紀抄曰世の中小人此痴癡を以て痛  
痛む。入らざる世治をすく人何れを。その  
痛乃病因を志すべ。知苦麻を。さ。す。も  
皆老が積の系を利るハ。高代の習俗。

それありよ又捨て置ば其積の葉が百邊  
こい外に悉くを引出けぬ。我周滿  
和ん生ハ生は田舎の茅塚子れとい  
ゆる因果。学問好ま。十九や元の以てハ  
一廉言傍の鼻言く何先生と呼ばる  
つりぐ。氣性ハずんど物多小。皆人のス  
秩父炭よりうるりしが。風と了簡を引  
之く。手作の茅を喰ひあぐ。眩くと死

とすばめ。放屁儒者よ。飲まぬ。何でもたて  
と四五文で喰かがり。浩く不ハ百能。其家  
持の時くとあられぬ。茲はおめく世の中  
乃。商家農家の若者子才。分別ありに  
学問。詩を作り。書画を嗜む。外史  
トやの詩類トやの。名流あり。一書あり  
く。自好の多。子錢家の毒おひ。又年  
に近里隣村あり。学問とく。其上を

上りのつまりは方極はあきなり。富家の子弟四五人。詩佛五山が才子。令沙を費せしものみ七人。又米倉。老が門ホ入く。その流るるもの三四人。あよえすくれくれむ。その款い少く深く。今より曲高の子才をしめて。け速ひあ。めんと。妙く奇淡の作らう。然る。ふいに年正とつとを梓ゆし。承先生

の存念もあべ。知りたり。振の作も。鬢。月。遠ひ。周の袂。その玉くれ。海。不。あ。さ。の。旨。目。の。提。燈。の。振。目。の。え。え。ぬ。人の作といえぬ。年正の名乃。印。を。正。さ。や。ハ。と。昔。昔。年。正。を。書。く。り。み。あり。ぬ。五。覧。通。曰。文。化。十。二。乙。亥。の。冬。五。山。天。氏。佛。陰。晋。齊。作。る。孝。悌。く。潔。く。名。



孫を海保も又た... 天辰... 蜀山人... 再返く海保を... 又右川... 去

... 蜀山人... 再返く海保を... 又右川... 去

不致を... 角力... 論... 蜀山人... 再返く海保を... 又右川... 去

一く。そ極意に。當時世に噪しき人等も  
皆乞賣名村利。その心の賑く不充積  
むべき哉。その許利あるを言ふに迷ひ  
了答部リクセの農商の子才。商人はあつん  
の。学共あつん。或は書。或は画。その門  
に入。自ら弄妓歌酒の道を開き  
新時代は信ん。力を得る。その  
勤むべき業はつる。あつた。平の天地間を

用の人とある。そのを又ふつた。つる。氣  
の毒はあつた。け弊凡を救ふ。い  
める方便を教さんと思惟せられ。忽ち一の  
殊向を考へ。諸先生の段里を披して並  
立。又よ今言ふの人と如くても。皆かく志の  
耻しく。又洗す。そのあれを。百姓や商  
人の家おせ。子才たる。その必義と新  
りぬく。先世より傳へる。その家業を

終くつてめ。孝才の心を専らす。つとめさ  
らんよの老漢あん。け心を悟らへ。只猥  
小法名家を。請り罵るもの。ちのよ。我先  
生の才をよ。つとめ。看友とれ。此事一々  
熟くさる。一玉。

無量濫曰。妙く奇淡。先生一時の急作  
ありしを。逐臭の好人。早く持去く。張三  
字四写し。くく魚骨の法をあり。或は

倣字違ひ。或はまろく書れ。紫句を  
脱稿し。校今もかえだ。未の未なる写  
本を以て。何物の校見。梓小流め。う。  
古を以て。今に。板本。今に。あ。だ。  
真仁梅曰。水澆山人又一時く。く。奇淡  
の法を知。我先生の心を悟。加評の  
評家皆その心のゆ。とする。亦を得る者  
也。且や先生面晤の人。つとめ。ぬ。我先生

の作あるや成悟るよのふ似たり。いふもを  
れを。巻末に附せし詩子。西山積雪出云  
既。といひ別我先生を指ししる。先生の居  
住。江平より西の方。十竹里隔たる田舎  
に故。西山といふ。後雪ハ子問の古  
故。山飲を以て比喩ししものか。ある事  
や。又巻毎の序。万能少家持の時人  
と。しよべし。あき書しるよ公行代。南畝依

あふんのいや。涉保と遠り。と。無記無体の  
作者披し。実は山目。の提灯燈あるや。  
又曰。并正。蜀山人の作。は。さるる。ハね  
詩の作。手筒。に。假字。ある。を。讀めざる。を。此  
徴。こと。い。へ。る。ハ。又。不。遠。つ。り。け。若。の。取。詩。ハ。只  
趣。向。と。達。知。へ。の。之。彫。林。の。糸。子。附。せ。り  
井。の。字。より。之。を。立。く。黒。眞。北。眞  
醉。眞。垂。天。斯。不。養。博。扶。搗。吞。池。天。池。あ。だ。

莊子の字面を訓と讀み、目ゆく。諧淡を  
とらるゝれし。是ハ東坡居士ガ真義コ  
我れ。眉を揚ち鼻が田舎の滑稽也。  
詩佛の柔ふ所をれ。ハ放の字より  
念を置く。放増又息の反吐皆れ也。  
アあきよう。蓋毒とつををちし也。  
子山の柔ふ所をれ。ハ水後山人の云  
つ。欲の子山とつををれ。ハ瀧州

今ハ巖相増、大山大商ふ道。大不劫と。字面  
の諧淡也。如市寛并射利魁ハ市の字  
をこしし。ハ易の近市利三倍の文を思  
や。この心。おのち多。ハ文を去るは。何  
り句作の工拙をい。何ぞ字訓の難易  
を論ず。ハ  
おはる。齊曰。糸正西云蜀山人子也。と  
おはる。おはる。ハ七くの格をい。つれもつ

こと正し多し。又馬場の後、井村の  
書を写し、礼法を以てす。の論は先  
生、まじ七の正法を以てす。む、發句語  
法のかゝり。ちんをくまれたや、如、か、か  
これ。その語、物、か、よ、し、る、ま、の、こ、何、の  
正、又、の、格、を、以、く。二、世、を、論、ま、く、ま、  
の、格、上、世、の、ハ、シ、キ、一、と、シ、も。中、世、の、ハ、シ、  
シ、一、と、何、り、只、の、語、法、を、い、ら、る、を

又、た、び、ら、有、り。か、る、語、を、い、ら、る、を、等、の  
る、を、以、く、作、を、法、律、に、準、自、人、と、す  
い、よ、く、掛、り

又、曰、文、晁、の、条、に、画、法、を、論、す、る、を、  
と、云、つ、る、は、又、我、先、生、の、先、を、以、つ、る、  
之、。蝶、者、画、に、お、も、る、を、今、の、画、法、を  
新、く、い、ふ、今、昔、の、外、の、山、  
は、彼、人、の、上、より、學、位、を、一、く、乳

韻旨法実よ妙よ。先よ古人新しと  
 いかべ。我先生の海おら知復た何と  
 べ。海れの房者。あが為ふ。念を利  
 ひ。應物写形の何を以て随類傳  
 彩の工を利ひざるをまよとく。それ  
 一とよの之。并正の海。流山くの。れ  
 後手の一云よ。さるらるら。千五万  
 又曰。刻石ハ。山岩の誤く。と。何と。さ。を

又。圓由と。序次を并へ。さる海。家  
 先生の念も。宋は。石ハ。江戸の人。あ。く。  
 唐土画人の神。と。一。堂。上。よ。念。ある。を。  
 校合。癖の。さ。徒。智。めん。との。念。を。ひ。な。小  
 江。を。わ。く。ら。れ。との。念。宋。は。石。あ。る。は。  
 念。を。併。よ。寓。居。の。紙。念。紙。一。紙。  
 念。を。併。よ。れ。さ。る。と。一。紙。  
 立。大。正。社。曰。并。正。云。首。首。西。が。二。道。人。よ

まゝめりしれし。錦城が其文子并かどくとぞんに  
借とまし。辭氣お妙なり。錦城が作を  
るるの疑ありしとひりし。押自し。昌西が  
頗多存時おまう。詔出せし。奉ハ海ありし。  
只小祝癖ありし。けく鄙俚無味  
の公も。叶奉ハ先生の後おの夢を  
演く。如んし。二道人の叱せし。八國を  
の二字。よう道人と自称し。日本凡ニ異

あんとするを合く。二道人は。いんせつ  
こ。又は一より何が錦城が作と徴するよ  
り。とむ。  
又曰。年正子。文昌星と判向し。錦城  
を先生とつよびきりあり。錦城が人品  
判向と敵すん。とびと年し。る。是又錦  
城を多理よし。んが為の海。年を  
我先生の錦城を大治小族し。書画



門かど賣うり名な射利しかりの後のちをを又また下くだす。天下てんか大だい傳でん  
のま集しゅうをあるる。あの海うみ城じょうもも女にょ色しき重おも  
遊あそのい一いつ癖くせ。校がう門もん筆ひつ仕しのし仕し換かト。言こと行ゆ  
表ひら裏りままのの大だい傳でんよよ何なにととささるるををここし  
海うみぢぢんんよよハハ文ぶん昌しょう魁けい星せいををかかづづれれをを思おもふ  
ままのの海うみ十じゅうととみみええ張ちやうをを心こころくく。かかくく設せ  
ちちととれれららるるをを別べつ向きやうををけけりりととるるハハ遊あそび  
海うみくく無む正せい。引ひととままらら。年ねん安あんのの句く。そその

外と移うつくくのの語ごをを説せくく。海うみ城じょうのの作しやくら  
微いととやや。皆みな故こりり海うみめめくく。一いつつつももああらら  
が。現げん心しん地ち獄ごく相さうのの毎まいよよくく。浪なみ道みち。くく  
知ちるるづづままるるをを我われ先せん生せいのの。右みぎ回まわ海うみ城じょう先せん生せいハ  
学がく古こ今いまとと極きよくめめ。一いつ世せいをを瞬しゅん一いつととままれれるる  
ハハ。一いつ海うみのの眼がん目もく。ほほよよ。舉あげげ揚よう混こん下か。又また  
娼お妓ぎのの上かみがが握にぎりりととああるる。無む正せいのの作しやく者しやくハ  
ええをを無む正せい。毎まい日にちハハ海うみ城じょうハハ押お付つけんんととまま



自と作く。こが陰悪慝志を破る。つる  
るづきや。又北山が笑者福聚を引く。陰  
城、小山を脊骨とせし。と。正理を  
も是近代の弊也。小山と書きたる  
一時。野舟の門より。おぬ。孝同。お  
ぬ。ハ先。孝。あれ。尊。信。く。脚。舟  
のぬ。く。く。く。小山ハ。儒。侠。の。名。價。沸。  
沸。一。野。舟。ハ。累。年。所。學。地。を。拂。ひ。石。に

る。酒。類。の。概。老。と。あり。多。れ。ど。小。山。を。え  
せ。と。ハ。梅。老。の。道。望。と。あり。城。砂。ち。或。書  
画。舎。め。く。口。流。る。り。ハ。その。和。睦。の。修。く。  
唯。一。の。作。態。め。く。孝。經。梅。村。信。の。序。よ  
ち。一。め。り。小。山。先。生。と。書。き。し。め。り。と。あれ。ら  
も。小。山。が。修。氣。深。く。先。孝。へ。の。れ。を。笑  
み。い。ら。り。し。ま。べ。一。海。舟。が。小。山。を。背。骨  
と。し。り。し。小。山。の。徒。の。え。不。持。一。海。舟



よめる時々々々々々々々々々々々。蜀山  
 人の作や人の海博の作や人の  
 高松量たかまつりょうの作や技わざ。返かへく我われ先生の  
 名の事こと事こと吾輩わがはいの事こと返かへ大方たうほうね  
 ど先生の心こころをなぬ火ひの心こころつらーよ  
 くるけ年としく正ただ一ひと後ご人を乞こへくれ。先生せんせい曰いわ。  
 ころんぬのどら。

# 發行書肆

心齋橋通南久宝寺町	伊丹屋善兵衛
川 北久宝寺町	河内屋源七
川 北久太郎町	河内屋善兵衛
名古屋水町三丁目	菱屋藤兵衛
八丁目	菱屋平兵衛
日本橋通一丁目	須原屋茂兵衛
二丁目	山城屋佐兵衛
川 芝神明前	小 林新兵衛
川 横山町三丁目	岡田屋嘉七
横山町三丁目	和泉屋市兵衛
浅草茅町三丁目	和泉屋金石衛門
本石町二丁目	須原屋伊八
	梶屋喜兵衛

